

IV-74 パークゴルフによる公園利用の活性化に関する研究

北見工業大学 正会員 中 岡 良 司
 (株)ズコーシャ 武 田 さとみ
 (株)パル設計事務所 橘 邦 彦

1. はじめに

近年、北海道では公園を利用した新スポーツ「パークゴルフ」の愛好者が急増し、いずれの市町村においてもパークゴルフ場の整備が急ピッチで進められている。現状では北海道特有のスポーツであるが、今後は全国に普及する可能性が大きい。そこで、本研究では北海道におけるパークゴルフの普及の実態を分析するとともに、今後の整備に向けての指針を示すことを目的とした。

2. パークゴルフの概要

パークゴルフとは公園の芝生を利用したゴルフの一種である。しかし、専用クラブ1本しか使用しないこと、ボールの直径が6cmと大きいこと、ボールを打ち上げないことが一般のゴルフと大きく異なっている。ルールはほぼゴルフルールに準じており、1コース18ホール、パー66が標準である。各ホールの最大距離は100m以内と定められており、1コースを造成するには約2haあれば良い。公園以外にも河川敷用地、遊休地等が利用されている。（図-1）

この新スポーツは、昭和58年に北海道幕別町で考案された。当初の目的は公園利用者を増やすことにあったが、その後、昭和62年には国際パークゴルフ協会が設立され北海道全域への普及が始まっている。

パークゴルフの普及効果はおおよそ表-1に示す通りである。特に、軽スポーツであること、安全であること、無料でプレーできること、用具が安価であることなどから高齢者の愛好者が多く、高齢者対策の大きな柱となっている。

3. パークゴルフの普及状況

ほとんどのパークゴルフ場は公園に設置され無料であるため、パークゴルフ愛好者数を正確に把握することは難しい。しかし、専用クラブは1社しか製造していないため、その出荷本数の推移を図-2に示す。この結果、愛好者は急増しており現在のパークゴルフ人口は約20万人であると推測される。



図-1 パークゴルフ風景

表-1 パークゴルフ効果

効 果	効 果 の 内 容
コミュニケーション効果	①家庭内での3世代交流、②住民・職場での交流など
学校教育における効果	①学校教育での活用、②学校週休2日制での活用など
健康促進効果	①リハビリでの活用、②疾病克服、③健康増進など
老人医療費抑制効果	①高齢者の健康維持、②老人医療費の抑制など
土地の有効利用効果	①公園利用の活性化、②河川敷地の有効利用、③遊休地の有効活用など
地域経済への効果	①大会開催に伴う消費増大、②観光開発、③民間事業の可能性など

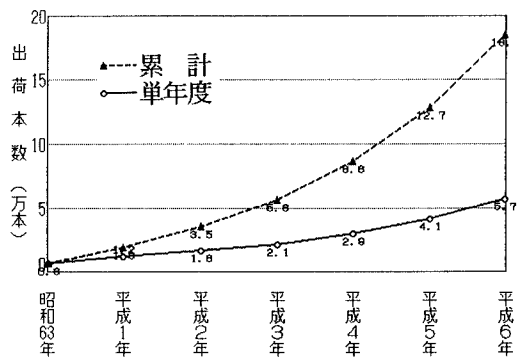


図-2 専用クラブの出荷数推移

表－2は、平成6年度現在における全国のパークゴルフ場の整備状況を示したものである。とりわけ普及の著しい北海道に関しては14の行政区域（管内）別に示している（図－3）。ここでは普及状況を普及率（パークゴルフ場のある市町村の割合）で示した。北海道内では普及率が約80％であるのに対して、北海道外では約2％（55自治体）に過ぎない。また、幕別町のある北海道東部地域（網走管内、十勝管内、釧路管内、根室管内）では普及率が100％と全市町村にパークゴルフ場がある。

そこで、北海道東部の現況を更に詳細に検討してみよう。表－3は、北海道東部にある60市町村のパークゴルフ場の整備状況を人口規模別に示したものである。ここで、整備率とは人口百人当たりのホール数である。この結果、人口規模と整備率には明らかに高い相関があり、人口規模の小さな市町村ほど高い整備率を確保している。これは公園面積そのものの差であると同時に、人口の少ない過疎市町村ほど高齢者対策に熱心であることが関係していると考えられる。

4. パークゴルフ場の評価

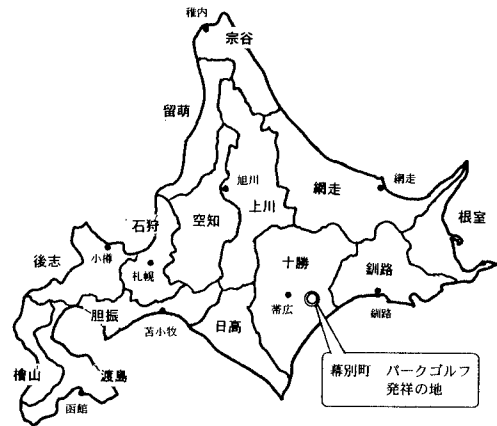
パークゴルフ場の整備率が高い北海道東部地域においては、既にパークゴルフ場の量的確保以上に質的向上が問題となっている。すなわち、レジャーとしてより競技スポーツとして評価が高まりつつある。

本研究では、平成7年12月、北見市のパークゴルフ愛好者 426人に対して利用意識調査を実施した。その主要な結果を以下に列挙する。

- ① 60歳代の愛好者が過半数を占めており、2人でプレーすることが最も多い。
- ② 自宅から最も良く利用するパークゴルフ場までの平均利用距離は約 1.5kmであり、利用交通手段は約8割が自動車である。
- ③ 数量化理論第Ⅱ類による分析の結果、パークゴルフ場の評価に最も大きく影響する要因は「コースの難易度」であり、次いで「ホール数」、「芝の状態」、「コースの広さ」である。

5. おわりに

パークゴルフが公園利用の活性化に有効であることは北海道で実証されている。しかし、積雪や寒冷気候を必要とするスポーツではない。また、高齢者の福祉対策としても大いに効果的である。パークゴ



図－3 地域（管内）区分図

表－2 パークゴルフの普及状況

項目	市町村数	P市G町保村有数	コース数	ホール数	普及率(%)	平均コース数	平均ホール数
地域	A	B	C	H	B/A	C/B	H/B
石狩	10	10	36	440	100.0	3.6	44.0
渡島	17	9	14	216	52.9	1.5	24.0
檜山	10	3	4	51	30.0	1.3	17.0
後志	20	13	16	210	65.0	1.2	16.1
空知	27	19	19	279	70.3	1.0	14.6
上川	24	18	30	413	75.0	1.6	22.9
留萌	9	9	17	252	100.0	1.8	28.0
宗谷	10	9	11	159	90.0	1.2	17.6
胆振	15	10	13	234	66.6	1.3	23.4
日高	9	8	9	171	88.8	1.1	21.3
網走	26	26	77	1113	100.0	2.9	42.8
十勝	20	20	115	2142	100.0	5.7	107.1
釧路	10	10	43	699	100.0	4.3	69.9
根室	5	5	19	333	100.0	3.8	66.6
道内	212	169	422	6712	79.7	2.5	49.7
道外	2982	55	55	846	1.8	1.0	15.3

表－3 人口規模別パークゴルフ場整備率

人口規模	市町村数	総人口(人)	ホール数	平均整備率(ホ-ル/百人)
10万人以上	3	480,798	591	0.12
3万～10万人未満	4	145,271	486	0.34
1万～3万人未満	17	260,318	1,497	0.62
5千～1万人未満	23	156,638	1,392	0.90
5千人未満	13	39,664	648	1.59
北海道東部全域	60	1,082,68	4,614	0.90

ルフの詳細は、国際パークゴルフ協会（幕別町教育委員会内、TEL. 0155-54-2006）に問い合わせ願いたい。
 ＜参考文献＞国際パークゴルフ協会：「パークゴルフルールと楽しみ方」、北海道新聞社、1993. 8